

2007年3月期 中間決算の実績と通期業績見通し

2006年11月16日

株式会社クエスト
(ジャスダック 2332)

代表取締役社長 佐藤 和朗

・中間決算概要

2007年3月中間期の概況(連結)

中間連結損益計算表

(単位:百万円)

	2007/3 中間期 実績	対期初計画比		対前年同期比	
		2007/3 中間期 期初計画	計画比 増減率	2006/3 中間期	前年比 増減率
売上高	3,284	3,182	+3.2%	3,216	+2.1%
売上総利益	527	501	+5.2%	451	+16.8%
粗利率%	16.0%	15.7%	+0.3P	14.0%	+2.0P
営業利益	140	115	+22.5%	52	+170.1%
営業利益率%	4.3%	3.6%	+0.7P	1.6%	+2.7P
経常利益	145	117	+24.6%	110	+32.2%
経常利益率%	4.4%	3.7%	+0.7P	3.4%	+1.0P
当期純利益	82	65	+26.5%	25	-
EPS (円)	26.25	21.07	+24.6%	8.32	-

連結売上高、利益ともに期初計画を上回る
売上高(+1億円)、経常利益(+28百万円)を達成

不採算案件の撤退が響くも売上高は前年比2.1%増を維持
収益体質の改善効果で経常利益は前年比32%増を達成

収益体質改善の効果

- 粗利率 2.0ポイントの大幅改善
 - 不採算案件撤退に加えプロジェクト管理を徹底
 - 新規ビジネスは既存ビジネスを上回る粗利率を確保
- 営業利益率 2.7ポイント改善
 - 粗利改善効果が営業利益を牽引、対前年比170.1%を達成
- 経常利益 前年比32%増
 - 株式売却益(47百万円)を織り込んだ前年実績を大幅に上回る
- 当期利益 黒字化
 - 2006/3中間期は減損会計に伴う特別損失計上(113百万円)

事業別売上高実績(連結)

中間連結事業別売上高

(単位:百万円)

	2007/3中間期 実績		対前年同期比		
	2007/3 中間期	構成比	2006/3 中間期	構成比	前年比 増減率
ソフトウェア開発	1,674	51.0%	1,743	54.2%	4.0%
システム運用管理	1,403	42.7%	1,290	40.1%	+8.8%
受託計算/データエントリー	186	5.7%	175	5.4%	+6.3%
商品販売	19	0.6%	6	0.2%	+216.7%
合計	3,284	100.0%	3,216	100.0%	+2.1%

事業別売上高(連結)のポイント

ソフトウェア 開発

前年比 4%

一時的な減収要因を受け全体では僅かに微減だが、
足元の成長基盤は順調に確立、利益率は改善

- ↓ 不採算案件処理に関連した一時的な減収
 - 過去に受注した不採算案件処理へリソースを投入。その分が売上げに繋がらず
- ↓ オプティスは本業のオフショア開発業務に集中。国内オンサイト業務からの撤退を受け一時的に減収
- ↑ 半導体、通信情報サービス分野での取引好調
- ↑ 新規ビジネスW社への売上1.7億円を達成
- ↑ 住商情報システムとの提携効果により新規案件獲得

システム 運用管理

前年比 + 9%

市場環境の好調さ以上に、
収益強化策の実現が利益に加え売上を大きく牽引

- ↑ 不採算案件撤退のマイナス以上に、通信情報サービス等の顧客で引き合い強く、稼働率UPにより売上げ増加
- ↑ 請負型の大型新規案件を受託。派遣型から請負型への転換が進む

連結子会社2社を含む内訳

中間連結子会社2社を含む内訳

(単位:百万円)

	クエスト単体		DSC (データ処理子会社)		オプティス (インド開発子会社)	
	2007/3 中間期	2006/3 中間期	2007/3 中間期	2006/3 中間期	2007/3 中間期	2006/3 中間期
売上高	3,182	3,050	78	77	86	100
営業利益	118	94	7	6	1	57
営業利益率%	3.7%	3.1%	9.8%	8.3%	1.5%	57.1%
経常利益	131	158	7	6	1	54
経常利益率%	4.1%	5.2%	9.9%	8.2%	2.0%	54.2%

子会社DSCは増収増益、オプティスは黒字化を達成

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2007/3 中間期 末	対前期比		コメント
		2006/3 期末	前期比 増減額	
資産合計	4,623	4,668	45	
流動資産合計	3,449	3,586	137	現金および預金の減少
固定資産合計	1,173	1,081	+92	投資有価証券等の増加
負債および純資産合計	4,623	4,668	45	
負債合計	1,021	975	+46	賞与引当金の増加
純資産合計	3,601	3,692	90	利益剰余金配当の支払

中間連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2007/3 中間期	対前年同期比		コメント
		2006/3 中間期	前年 同期比 増減額	
営業活動によるCF	80	165	84	法人税等の支払額の増加
投資活動によるCF	194	55	250	定期預金の預入、投資有価証券取得による支出
財務活動によるCF	94	78	16	前期の自己株式の処分による収入が今期はなし
現金及び現金同等物の 中間期末残高	2,272	2,028	+190	

. 通期の見通し

通期事業計画 計画値

(単位:百万円)

	2007/3 計画 (期初計画通り)	対前年比	
		2006/3 実績	前年比 増減率
売上高	6,792	6,470	+5.0%
営業利益	436	303	+43.9%
営業利益率%	6.4%	4.7%	+1.7P
経常利益	440	368	+19.6%
経常利益率%	6.5%	5.7%	+0.8P
当期純利益	246	137	+79.6%
EPS(円)*	58.33	44.14	+32.1%

*期末までに潜在株式がすべて行使されることを前提とした数値。

また、2007/3計画については2007年1月1日を効力発生日とした1株 1.3株の株式分割を反映させた数値 11

2006－2008年度中期経営計画

中期経営計画 計画値

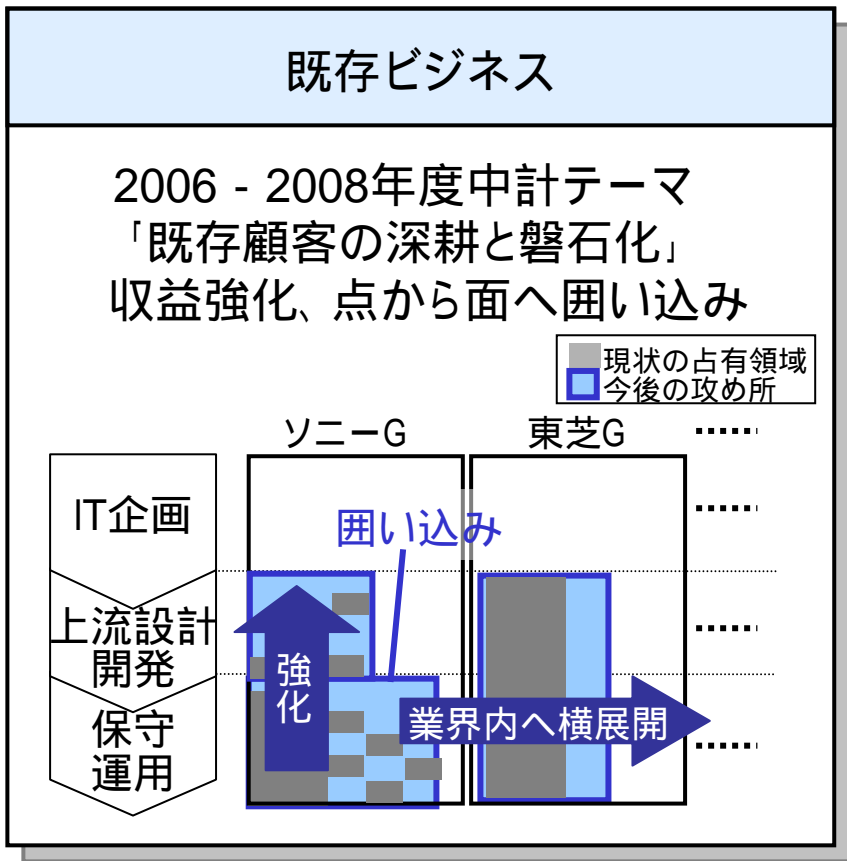
(単位:百万円)

	(参考) 2006/ 3期 実績	2007/3期 計画		2008/3期 計画		2009/3期 計画	
		通期	対前年 増減率	通期	対前年 増減率	通期	対前年 増減率
売上高	6,470	6,792	+ 5.0%	7,293	+7.4 %	7,929	+8.7 %
経常利益	368	440	+19.6%	527	+19.8%	642	+21.7%
経常利益率%	5.7%	6.5%	+0.8P	7.2%	+0.7P	8.1%	+0.9P
当期純利益	137	246	+79.6%	295	+19.9%	361	+22.2%

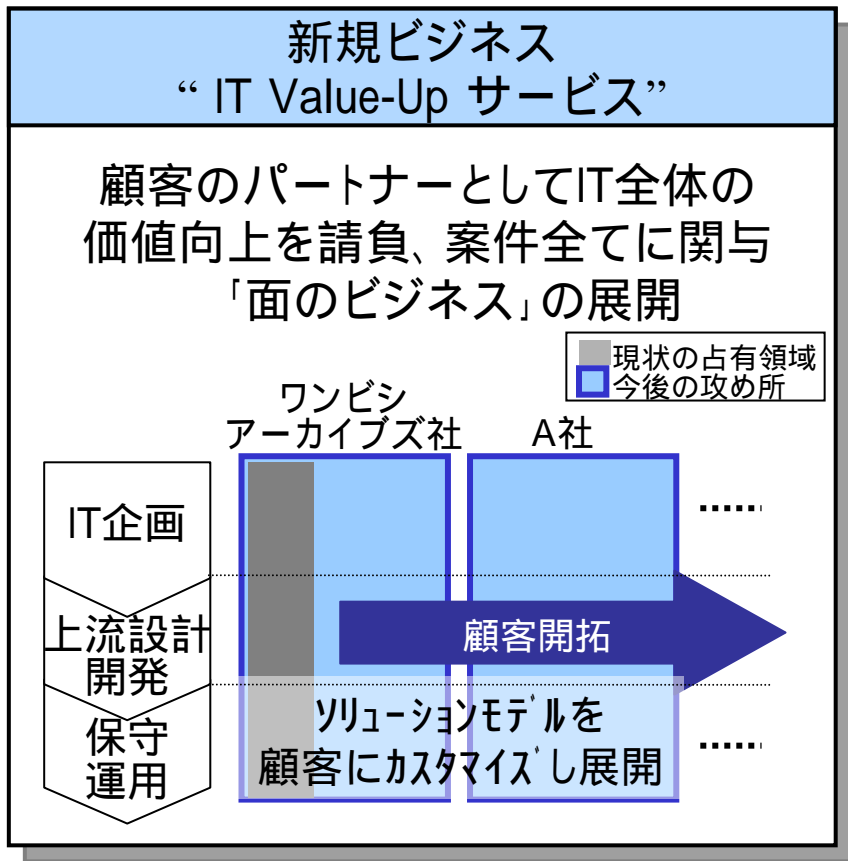
中期経営計画の2つのテーマ

< 2006 - 2008年中期計画説明会資料より >

既存ビジネスを深耕・磐石化するとともに、成長機会の拡大と新たな成長構造の創造を目指し、新規ビジネスを立ち上げる



安定的・磐石な収益源へ



利益ある成長エンジンの創造
目標: 2009年、3~5社、売上20~30億円規模
利益率既存ビジネス + 10%

既存ビジネス 既存顧客の深耕と磐石化

チーム・請負型への転換、
サービス提供体制の強化が進む

- 請負型比率UP。収益力向上
 - 請負型案件の獲得などで派遣型から請負型へ転換進む
- オフショア開発体制の更なる強化
 - 下期オプティスの開発規模拡大
- 成長に向けた技術人材を確保
 - 経験者採用33名(上期)に加え、2007年4月入社27名を予定
- 住商情報システムとの提携強化
 - 今期の売上1.4億円を計画

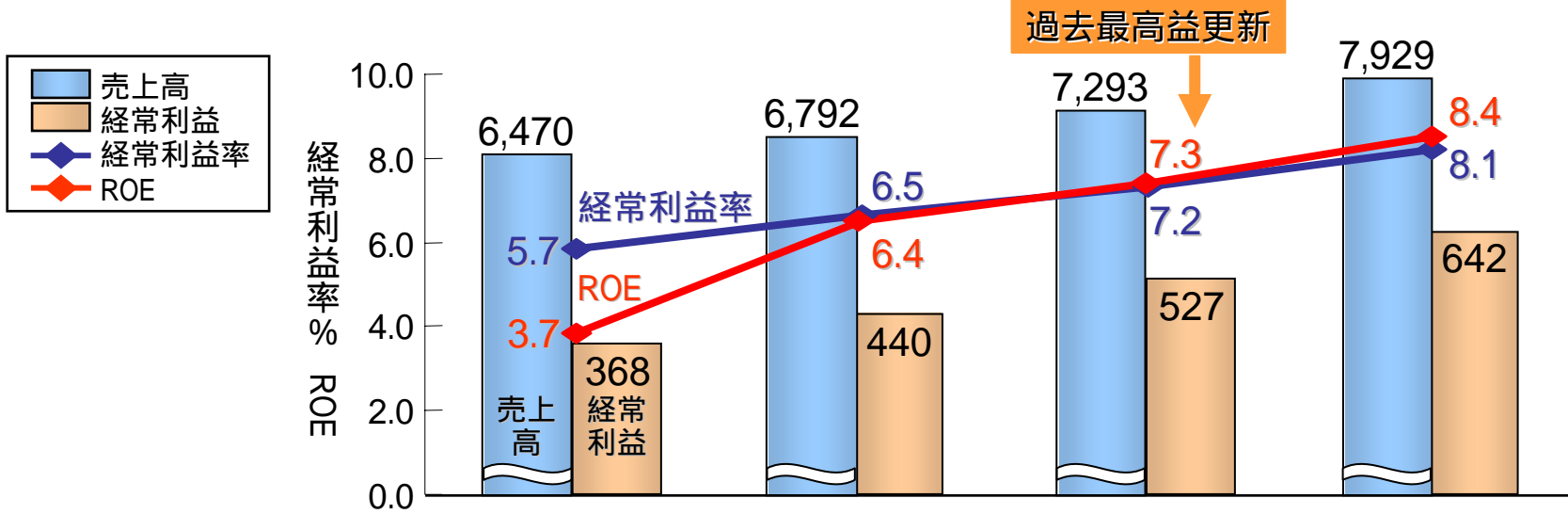
新規ビジネス “IT Value-Up サービス”

IT Value-Upサービス提供体制整う、
来期から本格的にサービス開始

- 新規ビジネスW社
 - 躍進した上期実績(1.7億円)の1.2倍以上の売上を下期に計画
- 中堅急成長企業 A社
 - 長期システム改善プログラム = 「IT Value-Upプログラム」の策定に着手。来期からプログラムの実行、本格導入の見通し
- 中堅急成長企業 B社
 - 来期受注に向け営業展開中

中期経営計画の目標指標

経営指標		2006/3期 実績	2007/3期 計画	2008/3期 計画	2009/3期 計画
成長性 指標	売上高(百万円)	6,470	6,792	7,293	7,929
	経常利益(百万円)	368	440	527	642
	売上高増加率	-2%	5%	7%	9%
	経常利益増加率	17%	20%	20%	22%
収益性 指標	経常利益率(%)	5.7%	6.5%	7.2%	8.1%
	ROE	3.7	6.4	7.3	8.4



成長目標 : 売上高**79億円** (成長率**9%**)、経常利益**6.4億円** (成長率**20%強**)
収益目標 : 経常利益率 **2.4ポイントアップ**、ROE **3.7 → 8.4**
 新規ビジネスの実現により更に計画値を上回る可能性有り

株主還元方針と株式分割について

～ 株主重視の経営の実現に向けて～

【株主還元方針】

株主のための企業という経営スタンスを従来より堅持するとともに、株主の皆様に対する安定的な利益還元の実施を経営の重要課題を位置づけ業績の伸張に合わせて、十分な内部留保を確保するとともに積極的な利益配分を行ってまいります

< 株式分割の実施 >

- 2007年1月1日効力発生
- 1:1.3株の分割
 - 2003/3期の分割に続く2回目
- 当期の期末剰余金配当については当分割により発行される新株も含め1株当たり配当30円を予定

< 安定的に利益を配分 >

今後につきましても
1株当たり剰余金配当金30円を
安定配当として利益配分

本日はありがとうございました

将来の見通しに関する注意事項

この資料に記載されている株式会社クエストの業績見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。

そのため、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠して投資判断を決定することは避けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご理解下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、世界情勢などが含まれます。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。